

～Withコロナ～

ICTで商店街活性化「多世代を結ぶQRカード」導入事業

事業実施主体：宮之阪中央商店街振興組合
事業実施箇所：大阪府枚方市
商店街店舗数：134店舗

- 当商店街の近くを流れている「天野川」に伝わる七夕伝説発祥の地として、30年間「宮之阪七夕まつり」を実施してきた（一昨年の30回目をもって終了）。
- 地域とともに「0歳から100歳までに愛される商店街」として、福祉関係者や地域の方も交えた協議会を発足。空き店舗を拠点とした子供食堂やレンタルスペースの運営等を行っている。
- 今後は、新しい生活様式にあった商店街事業を実施するため、非接触型での密を避けた商店街イベントの実施や商店街独自の電子化等の取組により、安心して来街出来るよう取り組む。

背景・課題

- ✓ 商店街周辺地域の高齢化により、来街者数の減少や商店街店主の高齢化による人材不足問題が発生している。
- ✓ 七夕発祥の地として30年間「宮之阪七夕まつり」を開催してきたが、一昨年の30回をもって終了した。
- ✓ 毎年年末に感謝セールにて抽選会を実施しているが、今年はコロナウイルスによる影響で実施が困難である。

取組内容

- ✓ 商店街独自のQRカードを導入。QRカードでの買い物等によるポイントの付加や、商店街活動に協力いただいた地域の方へ謝礼としてボランティアポイントを付加していく仕組みを実施。
- ✓ 事業終了後も、さらなるスマート化、利便性向上を図るため、QRカード情報をアプリで管理できるようにシフトしていく。

見込まれる効果等

- ✓ QRカード導入により、地域の経済循環を図るとともに、従来の抽選会では列を形成する必要があるなど、密になる状況があったが、今後密になる抽選会を分散させてリスクを避ける事が出来る。
- ✓ QRカード導入により、商店街独自ポイントが活用できるようになり、今後、来街者の増加、地域経済循環に繋げることが可能となる。



イベント(受付)のようす

(参考) スマポカード (仮称) の導入

- コロナ禍の中、来街者の減少及び消費喚起事業の中止により、新しい生活様式にあった商店街への誘客イベントの必要性や周辺地域の高齢化による来街者減少を解消する必要性がある。
- そこで、QRカードを導入。買い物することでポイントを付与し地域内経済の循環 & 消費還元の実現。対面で行う抽選会の実施をする必要性が無くなり、経費の削減と定期的な開催が可能に。
- また、現状のスマートフォン保有率は高く、高齢者の保有率も増加傾向にあることから、QRカードの情報をアプリで管理できるようにシフトしていき、更なるスマート化を図ります。

